

## 第1章 背景・目的等

### 1 背景

本市が保有する公共施設の約6割を占める学校施設は、91%が築30年以上と老朽化していますが、計画策定にあたっては、将来の小中学校の児童生徒数の減少も視野に、今後の学校施設の整備を検討する必要があります。

### 2 目的

本計画は、「計画的保全による長寿命化」の考え方を取り入れた整備手法への転換を図り、児童生徒の安全性の確保や適切な教育環境の充実を図ることを目的に策定するものです。

### 3 計画期間

・2020年度から2059年度までの40年間

## 第3章 学校施設の目指すべき姿

安全・安心な学校施設づくり

教育・学習環境の充実

小中一貫教育の推進

将来必要な施設規模・機能を考慮した効率的な老朽化対策

地域拠点としての学校施設づくり

## 第2章 学校施設を取り巻く現状

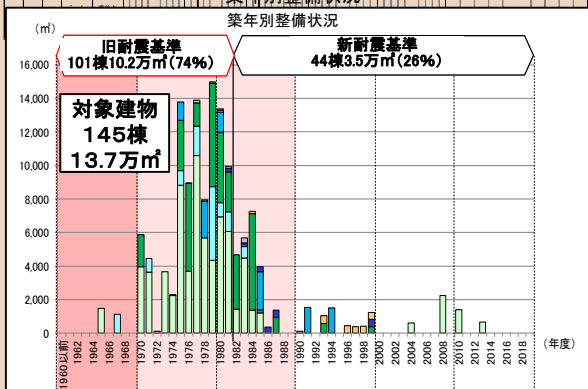
### 1. 施設整備の実態

対象施設: 小学校13校、中学校6校 計145棟 13.7万㎡ **現在**

(1) 建物基本情報		(2) 躯体の健全性		(3) 劣化状況		(4) 仕様		(5) 履歴	
施設名	種別	構造	躯体健全性	劣化状況	仕様	履歴	仕様	履歴	履歴
管理棟 南-3523	小学校	RC	A	B	RC	1976	RC	1976	1976
教室棟 南-379	小学校	RC	A	B	RC	1976	RC	1976	1976
教室棟 南-2456	小学校	RC	A	B	RC	1976	RC	1976	1976
給食・教室棟 南-2258	小学校	RC	A	B	RC	2008	RC	2008	2008
図給食室 南-15	小学校	RC	A	B	RC	1976	RC	1976	1976
図内運動場 南-670	小学校	RC	A	B	RC	1976	RC	1976	1976
プール専用更衣室 南-12	小学校	RC	A	B	RC	1976	RC	1976	1976
プール専用更衣室 南-18	小学校	RC	A	B	RC	1976	RC	1976	1976
プール専用更衣室 南-12	小学校	RC	A	B	RC	1976	RC	1976	1976
プール	小学校	RC	A	B	RC	1976	RC	1976	1976

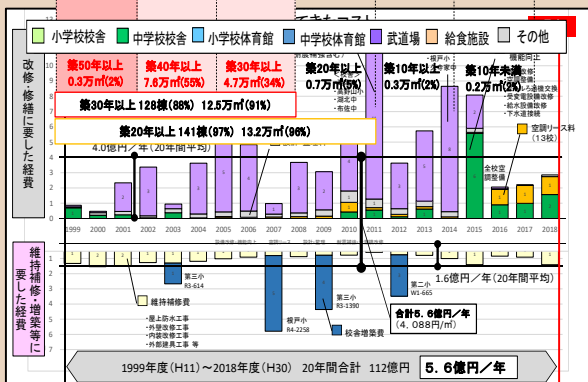
#### (1) 築年別整備状況

築30年以上の建物が127棟12.5万㎡(91%)であり、老朽化が進んでいます。特に建設が集中しているのが1975年(昭和50年)から1981年(昭和56年)で、この7年間に延101棟8.3万㎡を整備しています。→ピークが集中しており劣化が進行している。



#### (2) これまでかけてきたコスト

1999年度(平成11年度)から2018年度(平成30年度)の20年間の事業費は、総額112億円、年平均5.6億円/年です。

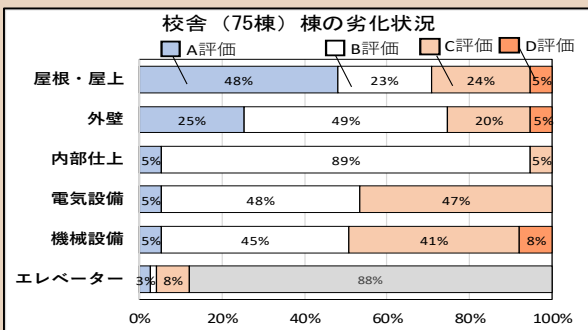


#### (3) 躯体の健全性

コンクリート圧縮強度をみると、13.5N/mm²以下である建物が3棟あります。これらは長寿命化には適さないといえます。

#### (4) 躯体以外の劣化状況

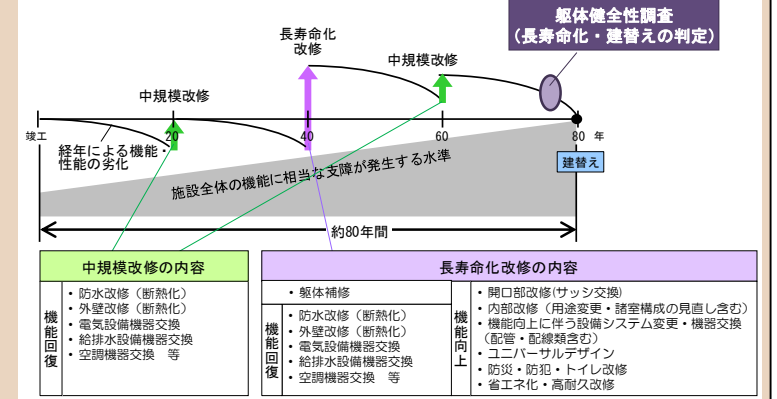
評価結果をみると、施工後20年以上経過したものについて、広範囲の劣化が見られます。劣化が進み早急な対応が必要な部位(D評価の部位)がある建物が22棟あります。



## 第4章 施設整備の基本方針

### 計画的保全による施設の長寿命化

構造躯体の健全性が確認できた施設については、改修によって機能回復・機能向上を図ることで、より良い状態で長く施設を使っていきます。



## 第6章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の考え方

### 1 目標使用年数及び改修周期

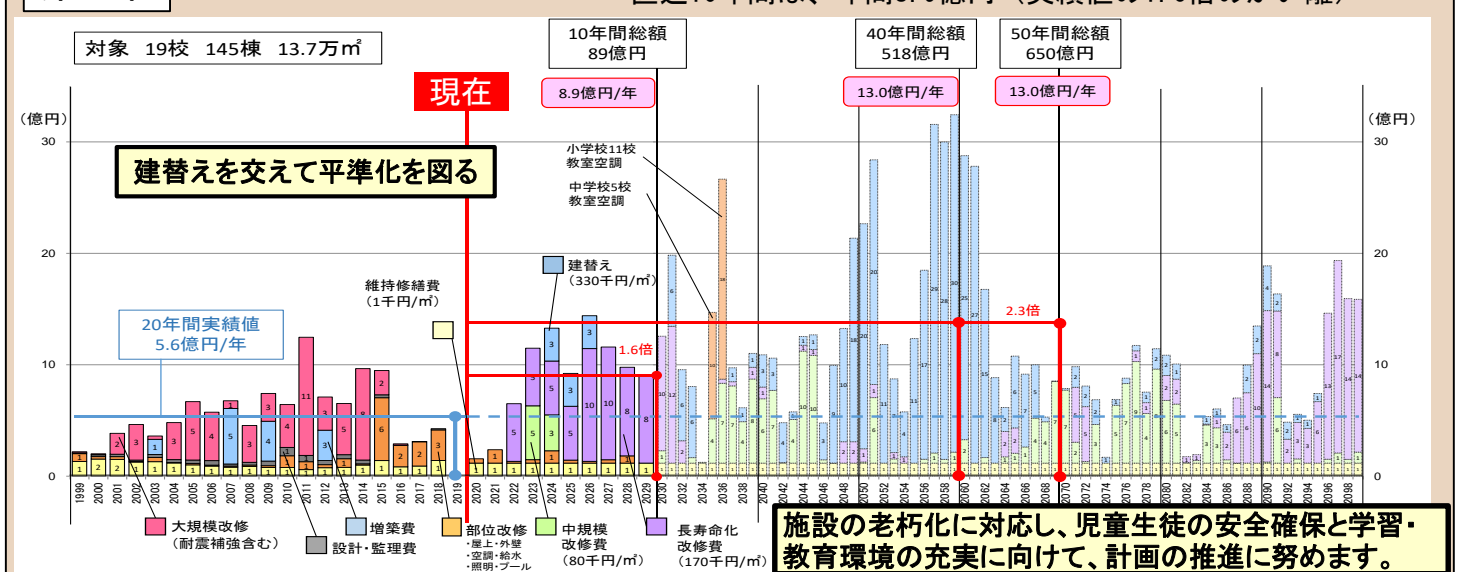
対象となるRC造の建物は、公共施設等総合管理計画の基本方針の一つである「施設の安全確保と維持管理の効率化」の考え方にに基づき、長寿命化を図ります。この場合、使用年数は、鉄筋コンクリート造で60年、鉄骨造で45年を標準とし、今後も安全に資産として活かすことを念頭に、損傷が軽微な段階で予防的な修繕を行うとともに計画的な大規模改修を図ります。さらに築50年前後を迎える時期を目標に躯体等の健全性が確保できることを前提として、最大80年までの使用に向けた検討を行います。

### 2 改修等の整備水準

長寿命化改修にあたっては、各部位の耐久性を高めるとともに、省エネ対応や多様な学習形態による活動が可能となる環境整備に応じることで、今後、30~40年間、施設を良好な状態で使っていける整備水準とします。基準とする整備水準は次のとおりとしますが、整備年度の財政状況や個別の施設の状況に応じて改修内容を決定します。

- ・屋上外壁防水・省エネルギー型照明(LED)改修
- ・給排水衛生設備改修・消防用設備改修
- ・バリアフリー機能改修・非構造部材耐震化

## 第7章 2 長寿命化のコスト見通し



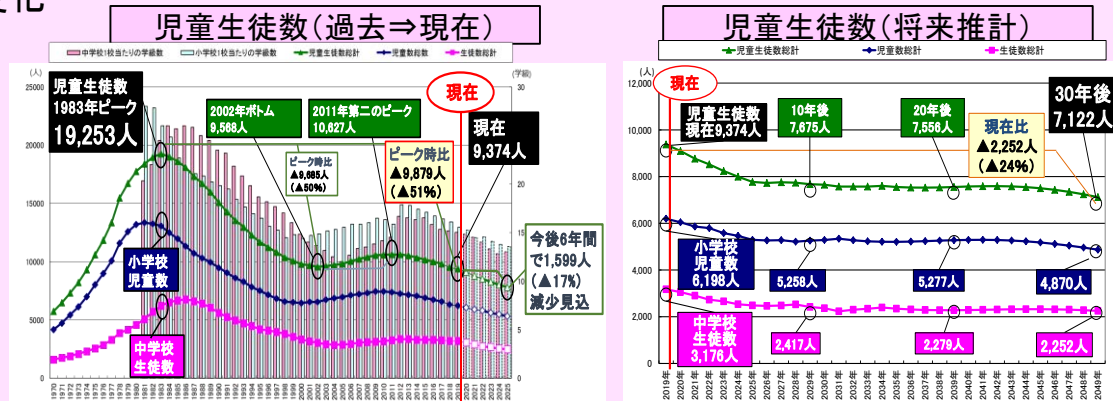
施設の老朽化に対応し、児童生徒の安全確保と学習・教育環境の充実に向けて、計画の推進に努めます。

## 第2章 学校施設を取り巻く現状

### 3. 児童生徒数の変化

ソフト

- 児童生徒数学級数は現状、ピーク時(1983年)の約5割
- 今後、6年間で現状より17%減少の見込み。



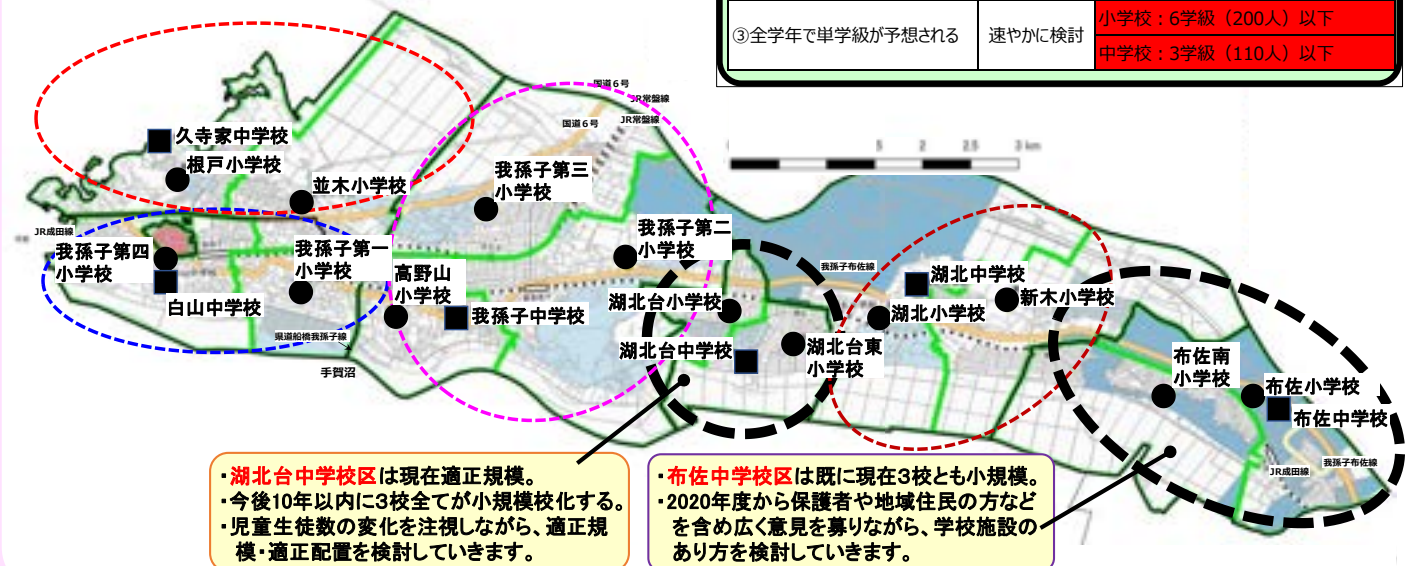
## 第5章 今後整理すべき学校施設の課題と方向性

### 1 将来変化への対応

#### (1) 適正規模の検討基準の明確化

児童生徒数の減少等の現状を鑑み適正規模の検討を始める基準を設定します。

【適正規模の検討基準】		基準
①我孫子市の適正規模を下回ることが予想される	検討準備段階	小学校：12学級(300人)未満 中学校：9学級(300人)未満
	検討段階	小学校：7~10学級(250人未満) 中学校：4~7学級(200人未満)
②複数学年で適正規模を下回ることが予想される	速やかに検討	小学校：6学級(200人)以下 中学校：3学級(110人)以下



#### 2 プール施設のあり方の見直し

今後、大規模改修や改築に多額の費用を要すると想定されるため、様々な手法の中から最適な方法を用いて管理・運営を工夫する必要があり、選択肢として現在の施設を引き続き利用、民間施設の利用、隣接校での共同利用等があります。  
プール運営手法の選択にあたっては、児童の水泳指導の継続を第一に考え、総合的に判断します。

学校給食施設については、児童生徒数の将来推計を踏まえて、自校、親子、センターの各方式による提供方法を含めた給食のあり方を検討していきます。  
現在の課題や提供方法の違いによるメリット・デメリットを明らかにした上で、トータルコストの比較により整備費用の縮減の視点も加味した検討を進め、2020年度(令和2年度)に給食のあり方の方針を定めていきます。

## 第7章 長寿命化の実施計画

### 1 改修等の優先順位付けと実施計画

#### (1) 優先順位の考え方

建物の詳細実態把握より、築年数、躯体の健全性、躯体以外の劣化状況、トイレの改修実績を考慮し、施設の整備計画を整理しました。  
長寿命化改修や建替えを行わない建物の劣化には、中規模改修や部位改修で対応します。  
施設整備に関する補助金や起債については最大限活用することとし、単年度負担の一般財源を最小限に抑えることとします。

#### (2) 今後10年間の整備計画(案)

2020年度(令和2年度)から2029年度(令和11年度)までの整備計画(案)は右表のとおりです。  
なお、各年度の状況や小規模校として適正規模の検討が今後予想される「湖北台中学校区」については、整備内容を見直す可能性があります。

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)			
長寿命化改修			我孫子中 ・教室棟R4-2815 ・教室・管理棟R4-2781 ・給食室S4-93				久寺家中 ・管理・普通教室棟R4-2994 ・普通・特別教室棟R4-2266		第三小 ・管理教室棟R4-2522 ・給食室R1-124 ・教室棟R3-1328 ・教室棟R2-45				
建替え					湖北台西小 ・管理教室棟R3-2764 ・普通教室棟R3-614 ・普通教室棟R3-761 ・普通教室棟R3-760 ・普通教室棟R3-651 ・渡り廊下S-134	湖北台中 ・教室棟R4-3170 ・管理教室棟R3-1207 ・管理教室棟R3-696 ・管理教室棟R3-1410 ・渡り廊下S2-60			湖北台東小 ・管理教室棟R4-2542 ・管理教室棟R4-1878 ・給食室R1-186 ・管理教室棟R4-621				
中規模改修			並木小 ・管理棟R3-525 ・管理棟R3-1785 ・特別・普通教室棟R4-3098	第二小 ・特別・普通教室棟R4-3098									
部位改修(補助あり)		我孫子中 体育館照明	久寺家中 相談室空調	白山中 相談室空調	湖北台中 柔剣道場外壁	中学校全校の職員室空調	小学校全校の職員室空調						
部位改修(補助なし)		我孫子中 体育館屋根	第二小 給水設備	第三小 給水設備	湖北中 給水設備	布佐小 給水設備	湖北小 プール濾過機	湖北中 プール濾過機	第二小 プール濾過機	第三小 プール濾過機	第四小 プール濾過機	並木小 プール濾過機	我孫子中 プール濾過機
事業費	1.56億円	2.38億円	6.51億円	11.49億円	13.29億円	9.23億円	14.40億円	11.59億円	9.78億円	9.13億円			

※整備計画(案)の事業費には設計や工事監理などの費用は含まれておりません。

※整備計画(案)の事業費には設計や工事監理などの費用は含まれておりません。

## 第8章 継続的運用方針

### 1 情報基盤の整備と活用

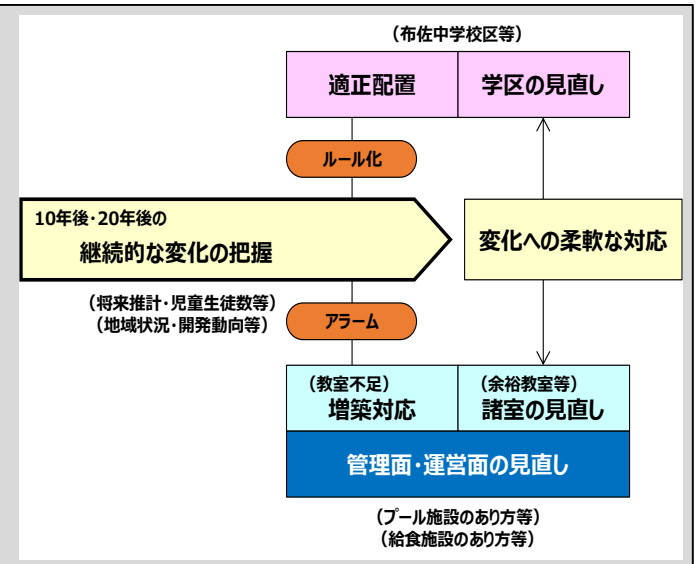
学校施設の基本情報、工事改修履歴等の一元管理を行い、施設の長寿命化を計画的に進めることとします。

### 2 推進体制等の整備

学校施設を所管する教育委員会が中心となって推進します。他の施設との複合化等の検討の場合は、資産経営課をはじめとする関係部署と連携し、検討を進めます。

### 3 フォローアップ

児童生徒数や地域の開発動向など学校施設を取り巻く状況を常に把握し、将来変化に柔軟に対応していきます。



# 対象施設一覧

令和4年7月1日現在

※建築年度は、その施設の建物(倉庫などの小規模な建物を除く)のうち、最も古い建物の建築年度となります。

名称	建築年度		児童生徒数		学級数		
	西暦	和暦	通常学級 在籍者数	特別支援	通常学級	特別支援	
小学校	1 我孫子第一小学校	1971年	昭和46年	477	21	18	4
	2 我孫子第二小学校	1973年	昭和48年	386	35	14	7
	3 我孫子第三小学校	1975年	昭和50年	669	51	22	7
	4 我孫子第四小学校	1965年	昭和40年	805	57	25	8
	5 湖北小学校	1967年	昭和42年	320	24	12	4
	6 布佐小学校	1975年	昭和50年	162	22	6	4
	7 湖北台西小学校	1970年	昭和45年	237	24	11	5
	8 高野山小学校	1975年	昭和50年	505	50	18	8
	9 根戸小学校	1976年	昭和51年	709	44	23	6
	10 湖北台東小学校	1977年	昭和52年	214	25	10	4
	11 新木小学校	1980年	昭和55年	369	30	13	5
	12 並木小学校	1981年	昭和56年	314	24	12	4
	13 布佐南小学校	1983年	昭和58年	149	12	6	4
小学校 計			5,316	419	190	70	
中学校	1 我孫子中学校	1977年	昭和52年	787	36	22	6
	2 湖北中学校	1976年	昭和51年	385	12	12	3
	3 布佐中学校	1980年	昭和55年	158	20	6	4
	4 湖北台中学校	1970年	昭和45年	276	23	9	4
	5 久寺家中学校	1975年	昭和50年	498	19	15	3
	6 白山中学校	1979年	昭和54年	669	32	20	5
中学校 計			2,773	142	84	25	
小・中学校 合計			8,089	561	274	95	

# 「適正規模と学校のあり方について」

我孫子市教育委員会・学校教育課

○学校の適正規模について

○布佐中学校区「学校の適正規模に係る  
アンケート」について

○今後の予定について

# 学校の適正規模について

本市では児童・生徒数の減少や学校規模の不均衡の現状を鑑み、適正規模の検討を始める基準を設定しました。その際には、次の三つの視点を重視しました。

- 子ども達の教育環境（最優先）
- 学校と地域との連携
- 将来の児童生徒数推計

## 我孫子市における学校の適正規模

- 小学校では、各学年 2 学級以上  
全体では12学級以上24学級以下  
(各学年 2 ～ 4 学級)
- 中学校では、各学年 3 学級以上  
全体では9学級以上24学級以下  
(各学年 3 ～ 8 学級)

## 学校の適正規模についての検討手順

- 適正規模を下回ることが予想される場合
  - 検討準備段階
- 複数学年で適正規模を下回ることが予想される
  - 検討段階
- 全学年で単学級**が予想される場合
  - 速やかに検討

布佐中学校区における学校施設のあり方の検討

○布佐小学校と布佐南小学校が

1～6年生のすべてで単学級(令和元年度から)

○布佐中学校が全学年で2学級(平成30年度から)



○速やかに検討

令和2年度から保護者や地域住民の方  
を含め、広く意見を募る。



## 児童生徒数の予想

学校名	平成27 (2015)	平成31 令和元 (2019)	令和3 (2021)	<b>令和4 (2022)</b>	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)
布佐小学校	251	199	191	<b>183</b>	171	166	168	152
布佐南小学校	162	169	170	<b>161</b>	151	154	148	150
布佐中学校	262	210	169	<b>178</b>	189	170	152	144
合計	675	578	530	<b>522</b>	511	490	468	446

# 我孫子市の学校の一大特色「小中一貫教育」

○小中一貫教育(H31～、布佐中区はH26～)  
**施設分離型**(小と中が離れている)



**施設一体型**も含めて広く検討

布佐中学校区における学校施設のあり方について  
広く意見を募る

○説明会で保護者や地域の方から意見を聞く予定



○新型コロナウイルス感染症のまん延



○説明会を実施できない



○アンケートの先行実施

保護者や地域住民、学校関係者対象

布佐中学校区  
「学校の適正規模に係るアンケート」について

**1 アンケート実施の目的**

- 「施設一体型の小中一貫校」の設置についての意識を調査し、今後の布佐地区の学校の在り方について検討するための資料とする。

**2 実施期間**      令和2年12月7日～令和3年1月15日

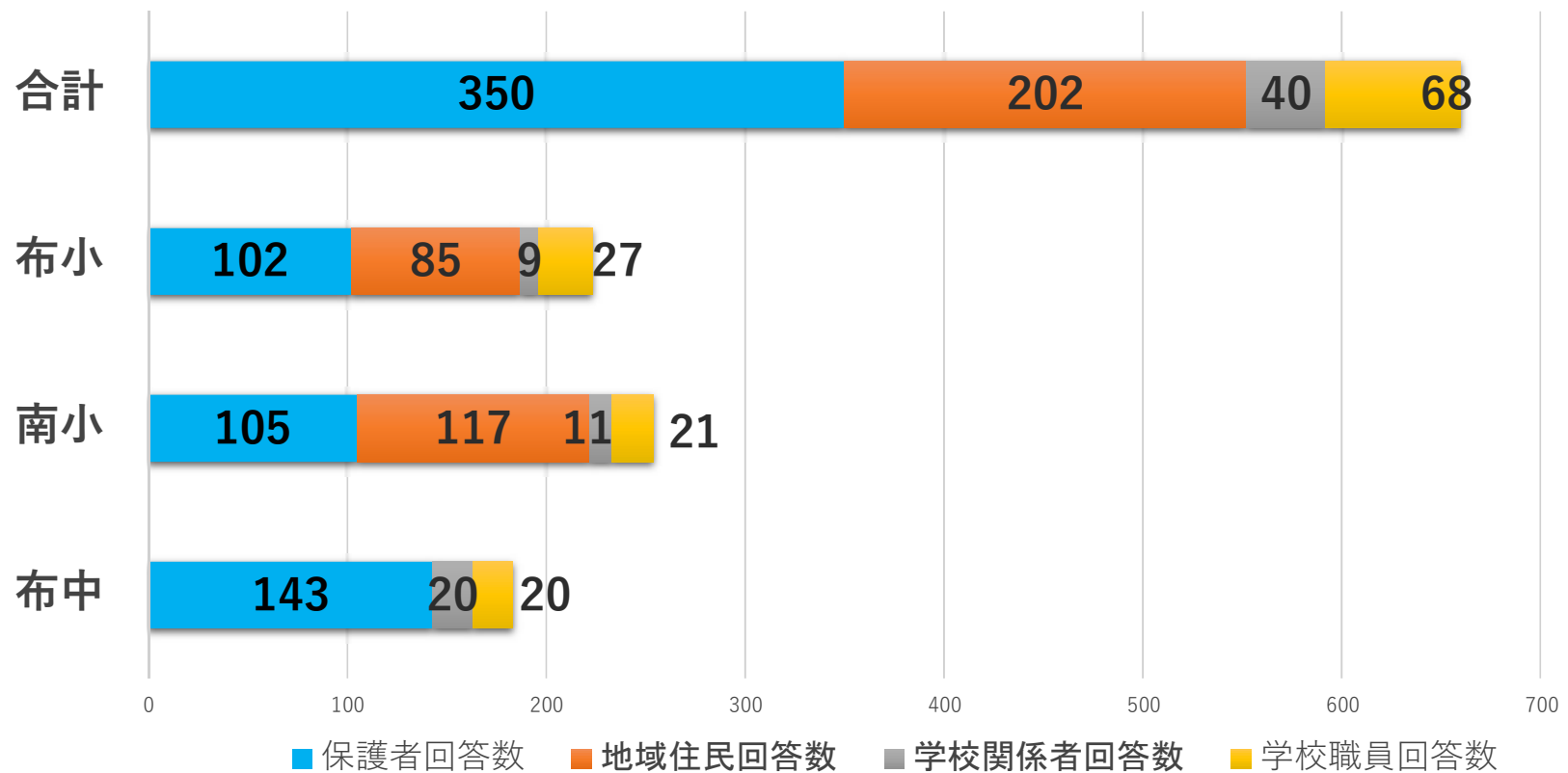
### 3 調査対象者

カテゴリー	内訳	1 布佐小	2 布佐南小	3 布佐中	計	
A 保護者 (世帯)		152	139	165	456	
B 地域 (世帯)	自治会長・班長	233	268		501	549
	新入生保護者	30	18		48	
C 学校関係者 (人)	学校評議員 ボランティア等	15	22	25	62	
D 学校職員 (人)	教員・教員以外	31	28	32	91	
	<b>合計→</b>	<b>461</b>	<b>475</b>	<b>222</b>	<b>1158</b>	

# 5 アンケート結果

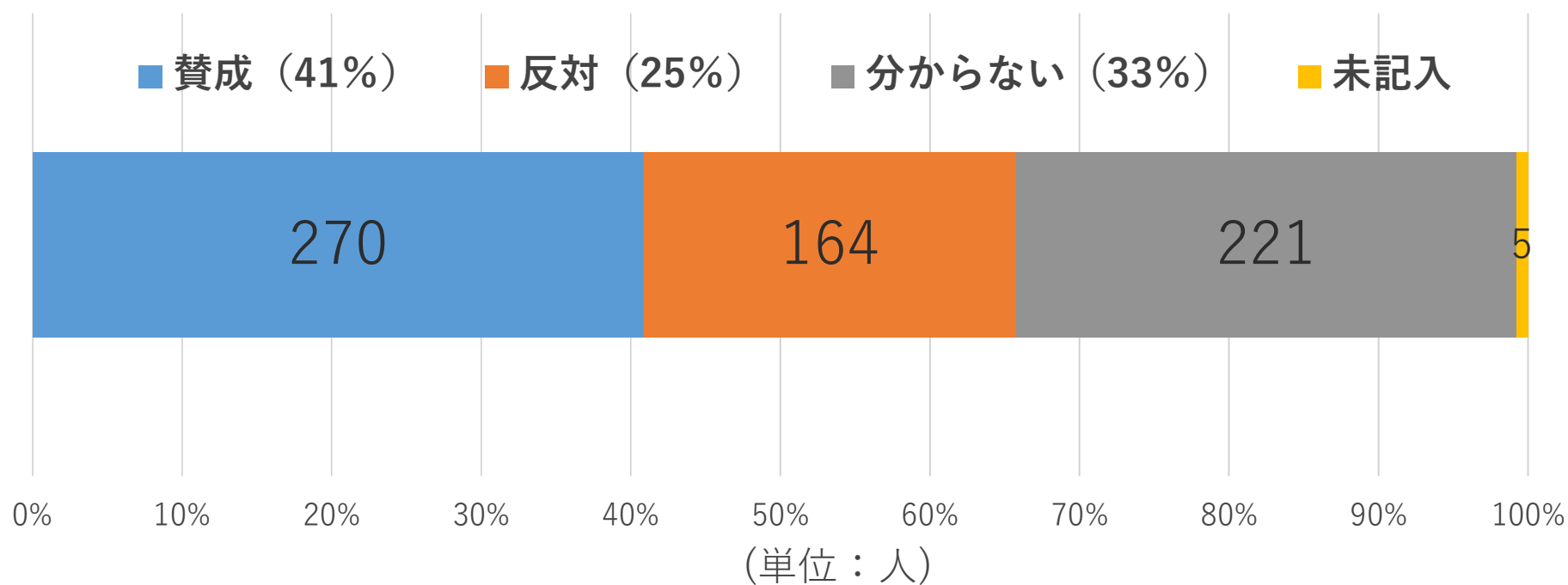
## (1) 各校別の回答者数とその合計

単位：人



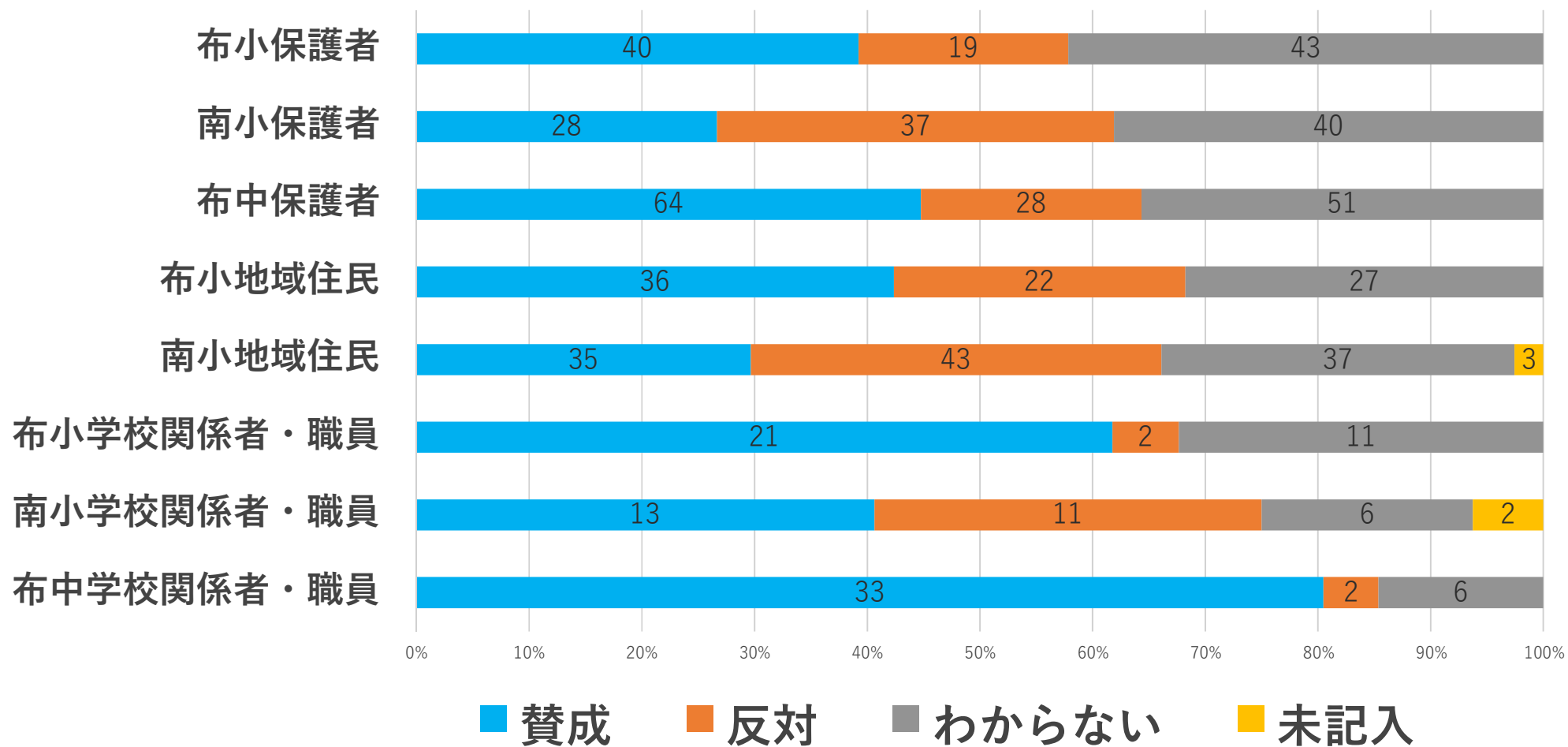
## (2) アンケートの回答

Q 2 施設一体型の小中一貫校の設置に対する考えで最も近いもの (1つ)



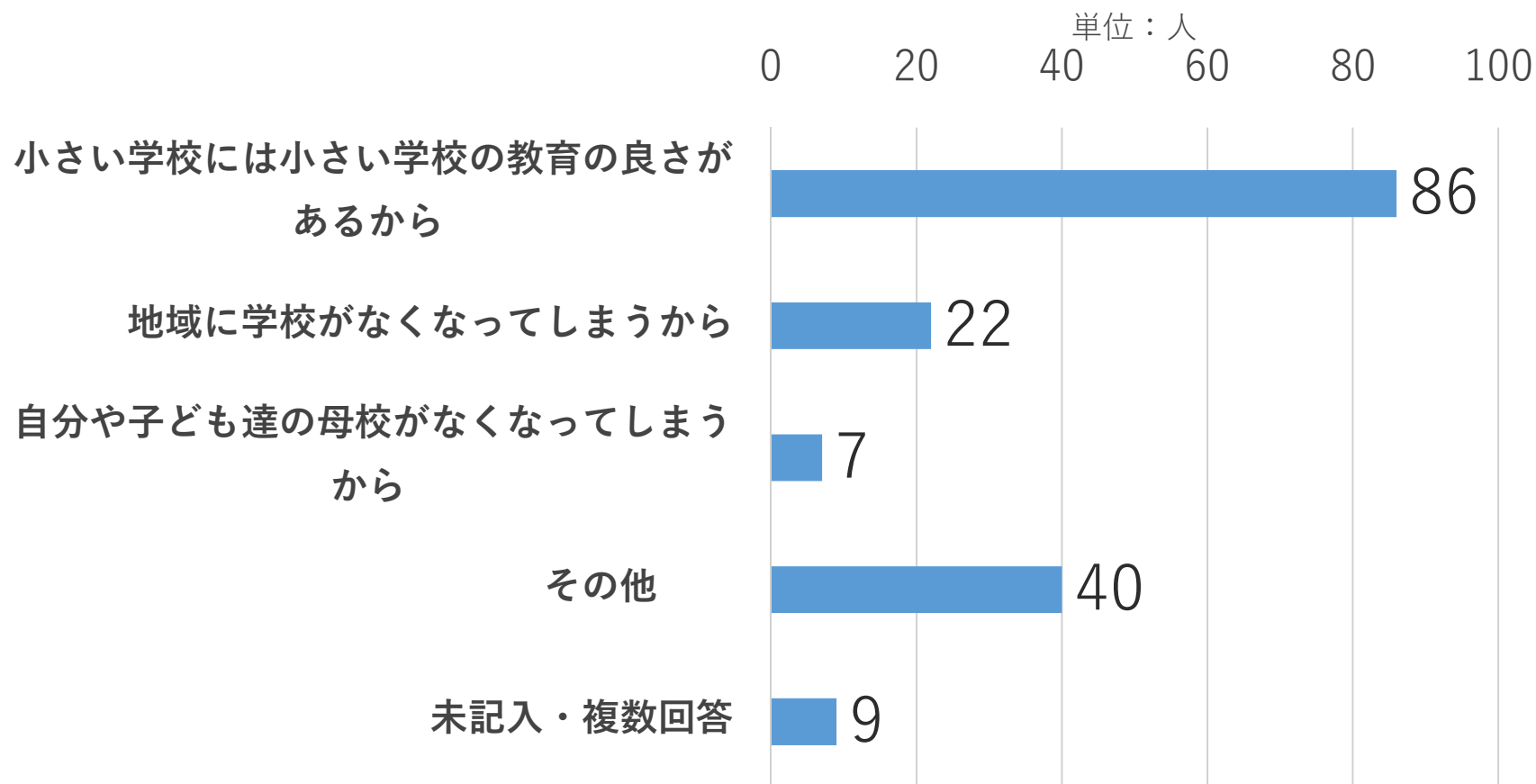
Q 2 - ③ カテゴリー・学校別

単位：人





### Q 3 一体型の小中一貫校の設置に反対する最大の理由（1つ）



### ※Q3 「その他」の記述抜粋

- ①デメリットでもあったように、小学生の最高学年としての活躍の場がなくなる。小学校と中学校では、子供の質も違うので（性の問題など）分けた方が良い。
- ②小→中の環境変化も大人になっていく上での大切な経験だと思う。
- ③(布佐小は)通学路に歩道がないため、安全上の心配がある。学校へつながる道路が狭い。校舎が古く設備の老朽化が心配。
- ④人間関係に変化がなく、新鮮味がなくなるので、例えば、嫌な人とずっと一緒にいなければならないことが今までの形態よりもきついのでは？と心配になる。
- ⑤(一体型を始めたら)失敗が許されないこと、予算の問題。

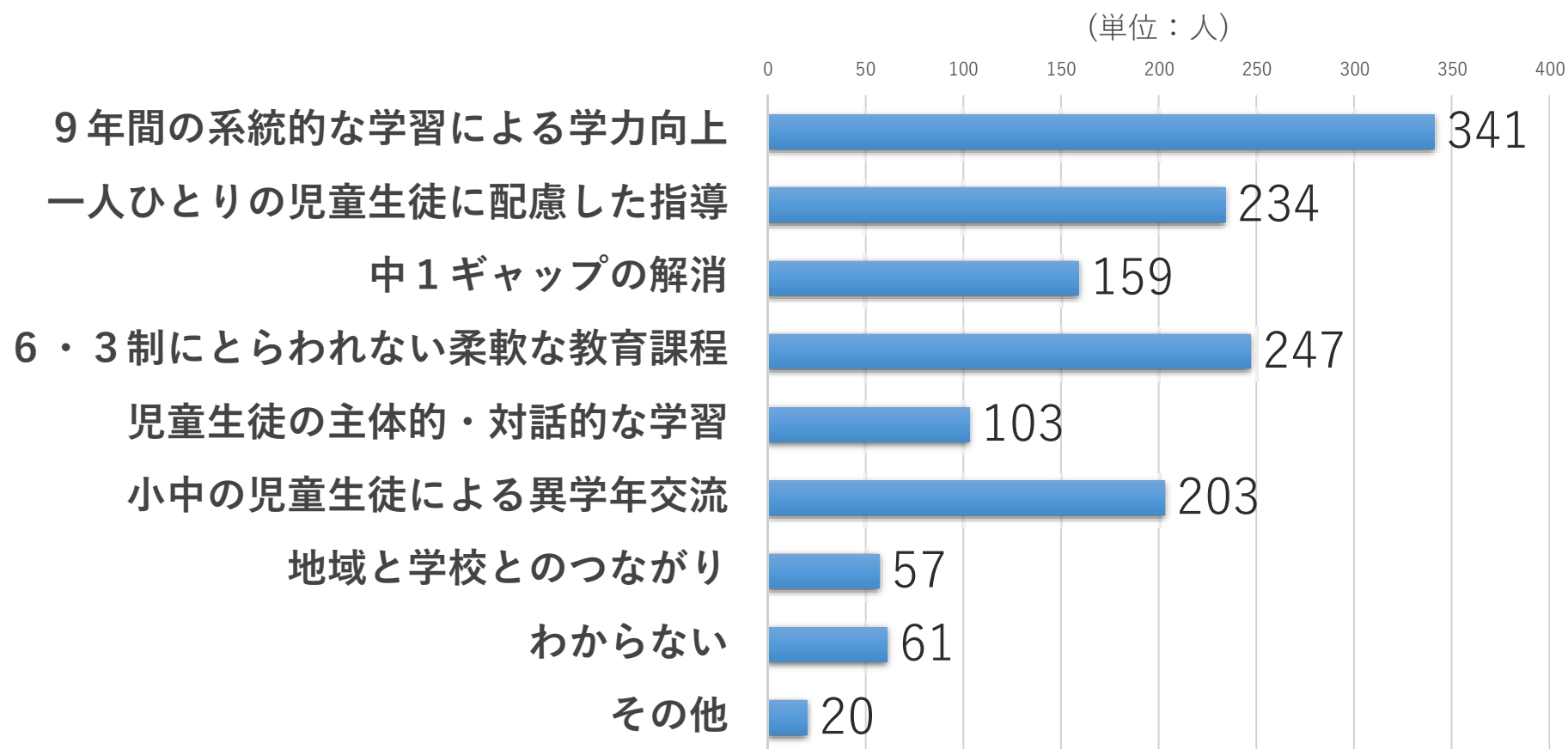
## Q 4 一体型の小中一貫校が設置された場合に心配な点（3つ以内）



※Q4 「その他」の記述抜粋

- ①いじめが小学校であった場合、最大9年間同じ環境、同じ集団でいることへの配慮と対策。
- ②中学生の小学生に対するいじめが心配。反抗期や精神面の問題がある中学生は小学生をいじめる可能性がある。先生たちや大人の目がちゃんと届くかどうか心配。
- ③人間関係が固定化され、リセットできる機会がない。
- ④平和台に増々子供がいなくなる。
- ⑤南新木地区のほとんどが新木小への学区変更を希望するのではないのでしょうか。
- ⑥**一体型の説明がないのでわかりません。**

# Q 5 一体型の小中一貫校に期待することは何か（3つ以内）



※Q5 「その他」の記述抜粋

- ①小中一貫モデル校としての学力向上への取組強化  
(人材・カリキュラム・施設設備等)
- ②特色のある教育、安心安全な通学。
- ③部活動（特に運動能力）の向上。
- ④小学校合併による生徒数の増加。
- ⑤友達が増える。
- ⑥小中学校間の情報共有。
- ⑦一体型の説明がないのでわからない。

- ①固定概念にとらわれず、時代にあった取り組みを先駆的に  
行う学校をつくってほしい。
  
- ②小さい子と関わることで、学校で「思いやる心」などが育  
つような経験ができれば、大人になって、親になって、虐待  
などの悲しいニュースも聞かれなくなるのでは思います。
  
- ③1学年が2クラスになることでクラス替えがあり、人間関係  
がリセットされたり、交友関係が広がったり、クラスの団結  
も深まったりなどするなら良いと思います。

## 4 回答者数・回収率

	対象者数	回答者数	回収率
A 保護者（世帯）	456	350	76.8%
B 地域（世帯）	549	202	36.8%
C 学校関係者（人）	62	40	64.5%
D 学校職員（人）	91	68	74.7%
合計	1158	660	57.0%



- ④小中一貫校になることにより、1学級しかない寂しさを改善することができる。、ぜひつくって、にぎやかな学校になってほしいと思っています。
  - ⑤児童数が少なくなります。早く一体型にしてください。
  - ⑥市内での先駆けとなるため、子どものために、ぜひ特色のある学校、充実した設備を整えてスタートしてください。
  - ⑦一貫校の設置には良い点、悪い点があると思いますが、少子化が進む以上、やむを得ず必要なことだと思っています。
- 通学の面で不便がないよう、特に小学生は学校側での送迎が必要になるのか、検討が必要かと思いました。

- ①布佐小学校の場所とありますが、新しく校舎を建ててるのですか。布佐小は校舎や体育館でかなり高低差があり、校庭が狭いのが気になります。その点では布佐南小の方が良いのでは。通学路も整備されて安全。
- ②南小学区は通学距離が遠くなる為、通学方法が心配。バスの利用を可能にするなど通学手段を考えないと南新木の子供達がかわいそう。また、南小が無くなることで地域（平和台）の衰退につながっていくのではないかと不安。
- ③小規模校で卒業した上の子達も「少人数でも良かった」とたいへん満足しています。一人ひとり丁寧に見てもらえるので、このままで良いと思います。

④話し合いや説明もないままに、アンケートに答えてほしいと言われても、どう考えて良いのか分からない。漠然と反対の気持ちがあるだけです。

⑤平和台地区から小学校がなくなることにに関しては地域の活力を減退させることを危惧します。そもそも小中一貫（統廃合）に至る背景は何でしょう？ 予算でしょうか？ 予算ありきで教育の在り方が問われる場合、小中一貫校の構想には反対です。

⑥とにかく場所が好きではありません。そちら(布佐小)に小学校を移した場合、南新木の子供は新木小に行くでしょう。

子供を何らかの理由で車で迎えに行く時、あの場所(布佐小)は不便だと思います。もう少し道を便利に広げてくれれば。暗い場所もあるし…。

Q 6 「自由記述」 抜粋

ウ-1

- ①賛成、反対、どちらにしても問題は残ります。子供達が取り残されないことを望みます。
- ②学力とは、どのような環境にいてもそこから学び取り、糧にする力だと思っている。子供自身が主体性を持って学ぶ意欲が発揮される環境を創造してほしい。
- ③先に小中一貫校になった学校がどうなっているのか。成功例を知りたい。
- ④施設一体型はいつ頃を目指していますか。現状を伝えて欲しい。

- ⑤行政側のスケールメリット（省コスト化）だけではなく、施設一体型のモデル校としての教員の人員や人材の確保、カリキュラムの強化による学力の向上と一人ひとりの子どもに配慮した指導等、子どもへのメリットのある統合を強く望みます。
- ⑥校庭の広さや小学校の築年数や設備などを踏まえて、今の規模のまま布佐小学校に全ての生徒を移すことについて、どのように想定しているのか。また、設備等新設するのであれば、それにかかるコストについての説明とそのコストに見合った教育面でのメリットがあるのか説明してほしい。
- ⑦布佐中学校は布佐小学校に比べ、特に体育館や校庭の広さ等、小学校より新しいが、使用されなくなった場合どのように活用されていくのか。

## 千葉県内の施設一体型の小中学校

( )内は特別支援学級

### ○義務教育学校

市川市立塩浜学園	児童生徒数	415人	15学級
成田市立下総みどり学園	児童生徒数	373人	17学級(4)
成田市立大栄みらい学園	児童生徒数	610人	22学級(5)

### ○施設一体型併設小学校中学校

浦安市立明海中学校	生徒数	289人	9学級(2)
明海南小学校	児童数	267人	11学級(1)
鴨川市立長狭中学校	生徒数	76人	3学級(2)
長狭小学校	児童数	119人	6学級(2)

# つくば市立みどりの学園義務教育学校



# 成田市立大栄みらい学園





## 今後の予定

### 令和4年度

「我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会」  
を発足（年間3回開催予定）

### 令和5年度

検討委員会を継続して開催（年間3回開催予定）  
検討内容を教育委員会へ報告

# 我孫子市小中一貫教育について

我孫子市教育委員会 指導課 小中一貫教育推進担当

1. 小中**一貫**教育とは

2. **我孫子市**が目指す小中一貫教育

# 1. 小中**一貫**教育とは？

カリキュラム（教育課程）は、**教育目標に基づく教育全体計画**のことです。

○小中学校で共有する**目標**がある

各中学校区で設定している  
「目指す15歳の姿」

○小中学校を一貫する**カリキュラム**がある

Abi☆小中一貫カリキュラム  
各中学校区小中一貫教育グランドデザイン

【小中一貫教育を行う公立学校の分類（制度面）】

	制度化された学校での小中一貫教育			従来の小・中学校による運用上の小中一貫教育
	義務教育学校	小中一貫型小・中学校	併設型小・中学校 連携型小・中学校	
設置者	(同一)	同一	異なる	同一又は異なる
修業年限	9年 (前期課程6年 後期課程3年)	小学校6年・中学校3年		
教育課程	・9年間の教育目標設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされた教育課程編成			
特例	独自教科設定	○	○	×
	指導内容入替	○	×	×
設置基準	前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準 中学校には中学校設置基準を適用		
設置・移行手続	市町村の条例	市町村教育委員会の規則等		なし

注：教育課程の特例について、「独自教科設定」は一貫教育に必要な独自教科の設定を意味し、「指導内容入替」は、小・中学校段階間を超えた指導内容の入替・移行を意味する。ここでの○は設置者の判断で可能、×は設置者の判断だけでは不可能（教育課程特例校なら可能）を意味する。

出典：「地方教育行政の多様性・専門性に関する研究 報告書3 市町村の教育施策としての小中一貫教育に関する研究」研究代表者渡邊恵子（国立教育政策研究所 教育施策・評価研究部長）2019（平成31）年3月 ※一部抜粋

## 我孫子市の 小中一貫教育

- 学習指導要領に準拠した、運用上の小中一貫教育（6・3制）  
※小5・6と中1の接続を重視
- 2小1中、または3小1中からなる施設分離型の小中一貫教育
- 「我孫子市小中一貫教育基本方針」のもとに、各中学校区が小中一貫教育グランドデザインを作成し、目指す15歳の姿を共有
- 我孫子市共通カリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」のもとに、義務教育9年間を接続

## 施設分離型の小中一貫教育

### 【メリット】

- 各小学校、中学校の学区地域の実情や、各学校の実情に応じてきめ細やかな対応ができる。
  - ・発達段階に応じた地域理解
  - ・発達段階に応じた学校課題への対応
  - ・小学校段階における登下校所用時間の均等化
- 小学校と中学校の学校段階の差が持つ教育効果を生かしやすい。
  - ・学校段階の差による成長・気持ちの切り替え
    - 例) 小学校6年生が、最高学年という立場になることにより、自立心が高まる。
    - 例) 生活・学習環境が大きく変わることにより、心機一転中学校生活に臨むことができる。



# 施設一体型の小中一貫教育

【メリット】

## ○小学校と中学校の連携・接続が図りやすい

### ・環境の接続

同一空間において発達段階を踏まえた義務教育9年間を見通した環境づくりが可能

### ・学習の接続

義務教育9年間の学びが見通しやすくなる。  
接続期（小5・6、中1）において、中学校教員による乗り入れ授業や教科担任制等が柔軟に行える。

### ・人の接続

異学年交流や職員交流、地域人材の共用が行いやすい。

## ○児童・生徒理解の促進

- ・中1ギャップの軽減や切れ目ない教育支援が行いやすい。  
例) 緩やかな生活・学習の変化 教職員の見守りの継続



施設一体型であっても、義務教育学校以外は、小学校と中学校それぞれに校長がおり、小学校6年間、中学校3年間の教育課程に基づいて学習します。

# いずれであってても小中一貫教育は可能

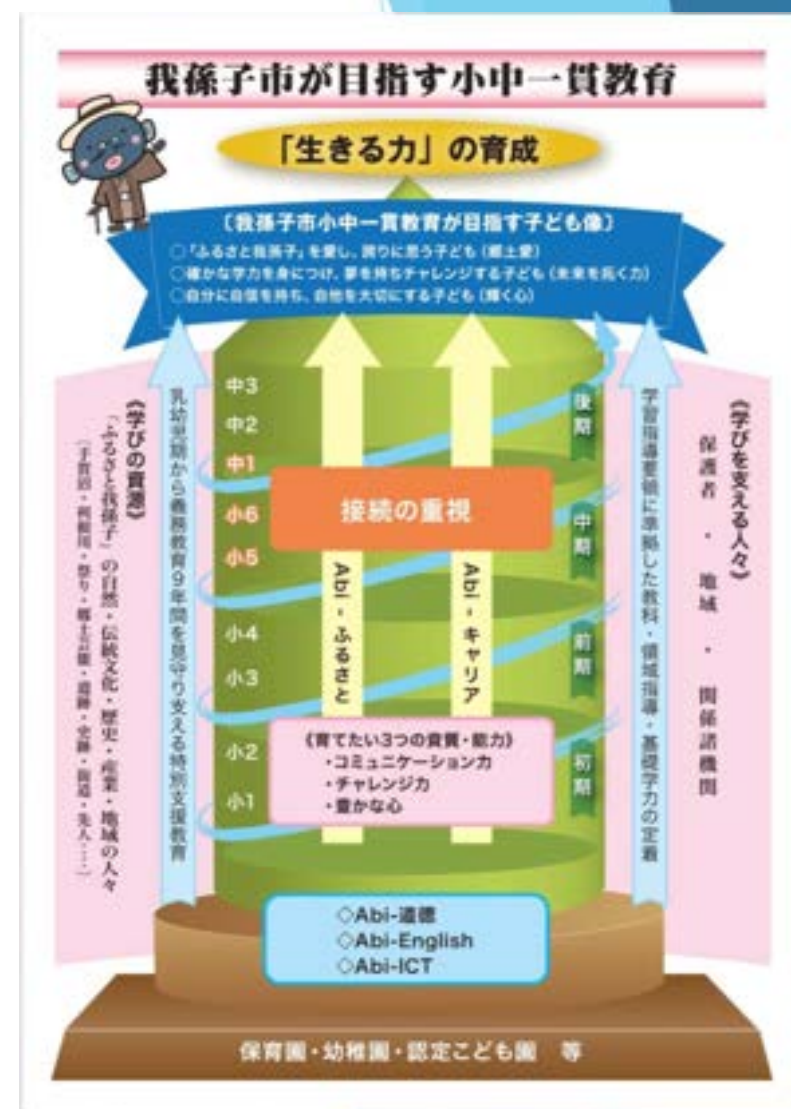
## 我孫子市の場合

中学校区小中一貫教育グランドデザインを  
もとに、Abi☆小中一貫カリキュラムや中学  
校区のオリジナルカリキュラムによる**義務  
教育 9 年間の見通しをもった学びを実現。**

例) 布佐カリキュラムの実施



## 2. 我孫子市が目指す 小中一貫教育



# これまでの我孫子市の小中一貫教育の取組（H25～）

**平成25年（2013）**

小中一貫教育推進委員会の立ち上げ

⇒協議開始・児童生徒の実態調査

我孫子市小中一貫教育基本方針（H26.2）の完成

**平成26年（2014）**

布佐中学校区を小中一貫教育推進地区に指定

我孫子市小中一貫カリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」（H27.3）の完成

**平成27年（2015）**

我孫子市小中一貫カリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」の全校配付

推進地区（布佐中学校区）を中心として、カリキュラムの試験的活用等、市内小中学校全体へと推進を進める。

**平成28年（2016）**

推進地区（布佐中学校区）において公開研究会の実施

「Abi☆小中一貫カリキュラム」の検証授業を市内各小中学校で開始（4か年計画）

**平成30年（2018）**

各中学校区小中一貫教育グランドデザインの完成

**平成31年・令和元年（2019）**

各中学校区において、目指す15歳の姿に向けて、小中一貫教育グランドデザインの運用開始。

**全中学校区において小中一貫教育の実施**

我孫子市小中一貫教育基本方針の改訂（R2.2）

～今後の予定～

**令和3年（2021）**

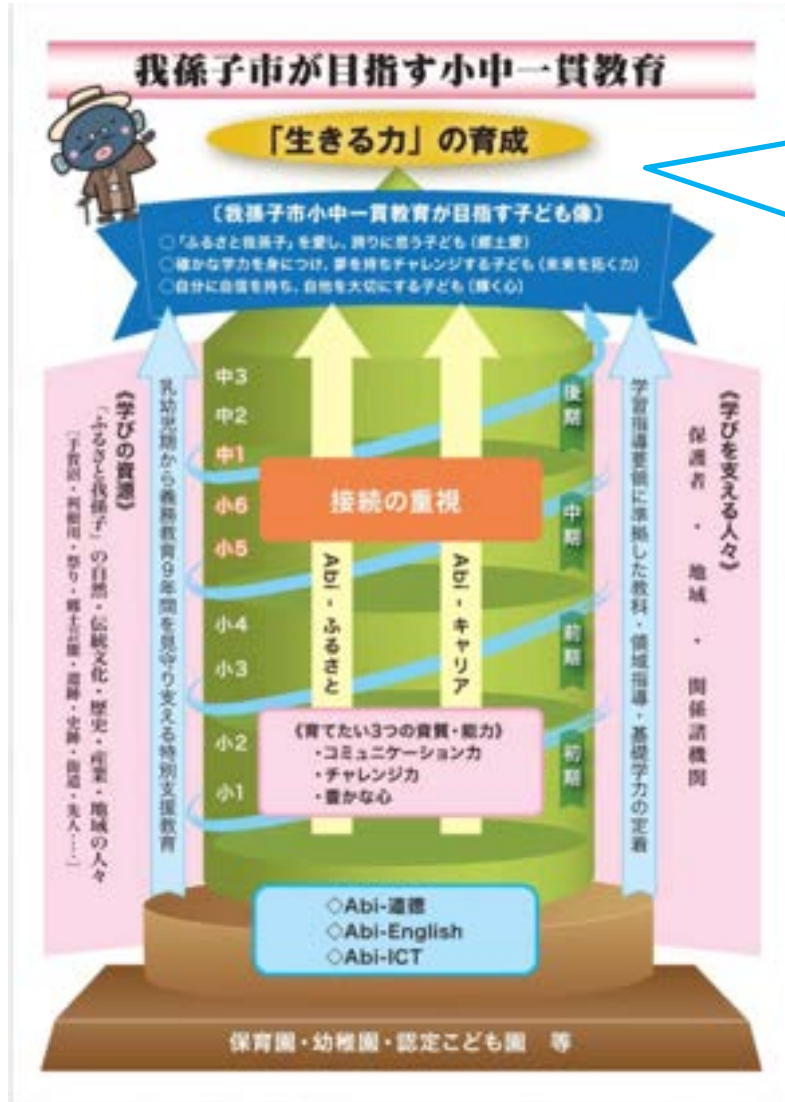
基本方針の改訂を受けて、「Abi☆小中一貫カリキュラム」及び各中学校区小中一貫教育グランドデザインの見直しを行う。

**令和4年（2022）**

改訂版「Abi☆小中一貫カリキュラム」の実施

各中学校区小中一貫教育グランドデザイン（改正）の運用開始。

# 我孫子市が目指す小中一貫教育



義務教育9年間の学びを充実させ、「生きる力」の育成することをねらいとしています。

そのために、目標「目指す子ども像」を共有し、その姿に向けて、カリキュラムで9年間をつなぎます。

また、学校と地域が連携し、地域資源を生かして、学びを充実させます。（体験的な学びの充実へ）

# 我孫子市が目指す小中一貫教育

## 目指す子ども像

### ○郷土愛

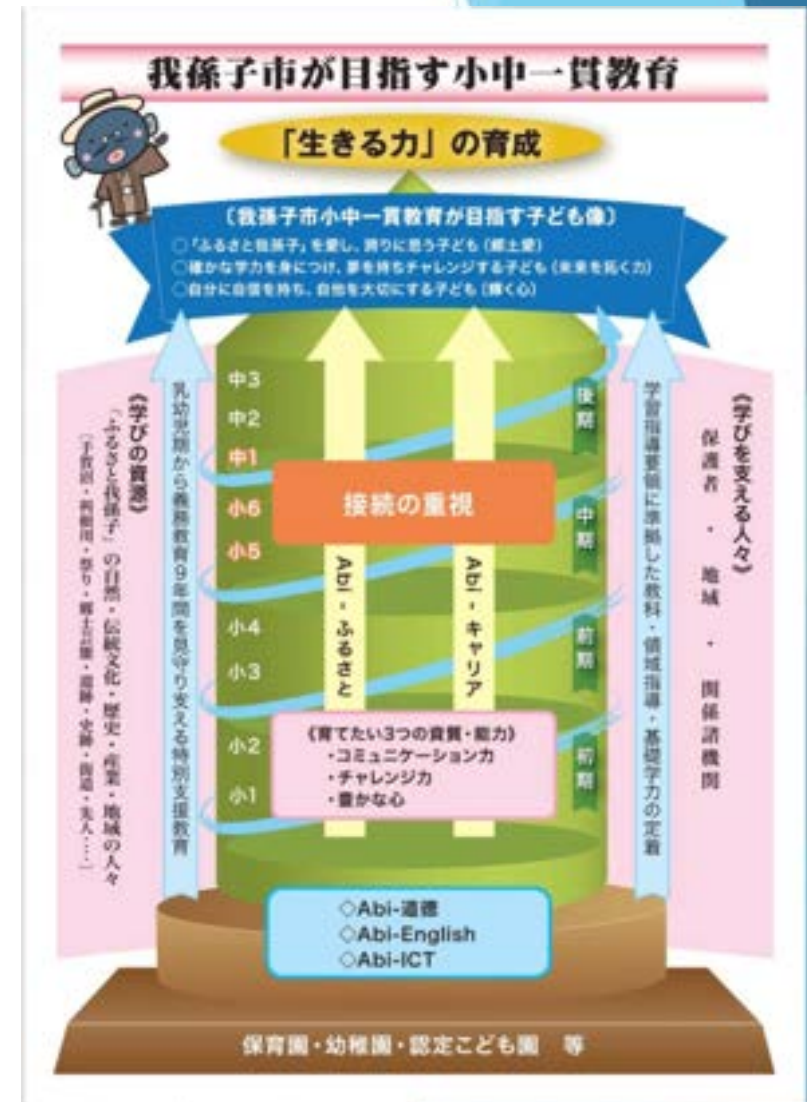
「ふるさと我孫子」を愛し、  
誇りに思う子ども

### ○未来を拓く力

確かな学力を身につけ、  
夢を持ちチャレンジする子ども

### ○輝く心

自分に自信を持ち、  
自他を大切にする子ども



# これまでの**成果**と課題

## ○郷土愛

「ふるさと我孫子」を愛し、  
誇りに思う子ども

- ・ Abi☆小中一貫カリキュラムの実施により我孫子の歴史や我孫子の先人への興味が高まっている。
- ・ 地域や我孫子への理解が深まっている。

## ○未来を拓く力

確かな学力を身につけ、  
夢を持ちチャレンジする子ども

- ・ 中区独自で進めている家庭学習の推進で学力向上を目指している。  
**(取組の定着)**
- ・ 地域人材を活用したキャリア教育の効果を感じている。  
**(地域との連携の効果)**

## ○輝く心

自分に自信を持ち、  
自他を大切にしている子ども

- ・ 周囲の人に対してやさしくできる児童生徒が多い。

## これまでの成果と課題

### ○郷土愛

「ふるさと我孫子」を愛し、  
誇りに思う子ども

### ○未来を拓く力

確かな学力を身につけ、  
夢を持ちチャレンジする子ども

### ○輝く心

自分に自信を持ち、  
自他を大切にする子ども

我孫子は好きという子は増えたが、  
「愛する、誇りに思う」までには至らない。  
どうしたらそこまで高まるのか。

「夢を持ち、チャレンジする」姿とは、  
具体的にはどんなことだろうか？

自分に自信が持てない児童生徒がいる。

## これまでの成果と課題.....他にも

- 児童生徒の、小中、小小交流により、中学校の様子や、ともに進学する仲間の様子を知ることができ、子ども達の安心や、期待感の高まりに繋がっている。（中1ギャップの軽減）
  - 小学校と中学校の教職員がともに学び協議する機会を設けることにより、相互理解が深まっている。
  - 小学校から中学校への引継ぎを丁寧に行うことにより、切れ目のない支援へとつながっている。
- 
- 我孫子市の小中一貫教育の「目指す子ども像」や「育成の重点」などが、いまだ十分に理解されていない。（目標の共有が不十分）
  - 交流活動等については、施設分離型の特徴から、実施にあたっては、時間や距離の制約、負担感がある。